

すっかり秋の気配が深まってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。救急医療、高度医療、病診連携を三つの基本方針として福岡新水巻病院が誕生し、四カ月になります。

これまで患者さん以外にもたくさん訪問者が来院されました。地元の行政（保健所、役場）はもちろん、医師会の先生方もすこしずつですが来られるようになりました。地域医療活性化のためにも地元の行政や医師会と仲良くすることが必要です。患者さんも福岡新水巻病院にかかれる時には是非かかりつけの先生から「紹介状」を書いてきていただきたいと思えます。紹介状（診療情報提供書）があれば検査の重複等無駄を省けますし、時間の短縮だけでなく診療費の削減につながります。患者さんの検査情報はその病院のものではなく、患者さん本人のものですからどうぞ遠慮なくおっしゃって下さい。厚生労働省もこのことを国民に詳しく説明すれば自己負担金を増やすという方法でなく、医療費を減らすことができるとは思いません。診察後は必ず紹介していただいた先生にお返事を書き、必要な情報を持って、お返ししたいと思えます。

最近救急隊との意見交換会（勉強会）も始まり、当院の職員に対する教育だけでなく、救急隊や地域住民に対する啓蒙、教育も当院の使命と考え、進めたいと考えています。私も小倉北区で二十年近く救急の最前線で働いた経験から、救急隊員の教育も同時にしないと真の地域の救急医療の活性化につながらないとの思いがあり、これは私の公約としてずっと永続性をもって実施します。

この病院の来訪者にたくさん虫たちがいます。いわゆる蚊は近くに川があるせいか大量にやって来ます。小さな蚊、虫さまたちで網戸を抜けてきます。また救急搬入口からたくさん入ってきます。〇―〇社製なんとかを置きましたら全くいらしゃらなくなり、メーカーの社員ではありませんが大変効果的なようです。また廊下には黒っぽいお客さんもよく来ます。よく見るとゴ〇ではなく、コウロギさんです。百均で買ってきた虫取り網で優しく院外へお連れせよと、院長令を出しました。外に出すといい声で鳴いてくれます。このあたりはコウロギの巣だったようで、入院患者さんもお気づきでしょうが、特に夜になるとたくさんいらつしやいますので優しい対応、またはお近くの職員までお願いします。夜になりコウロギさんの声を聞くとひと恋しくなるこの頃です。 第7章。

